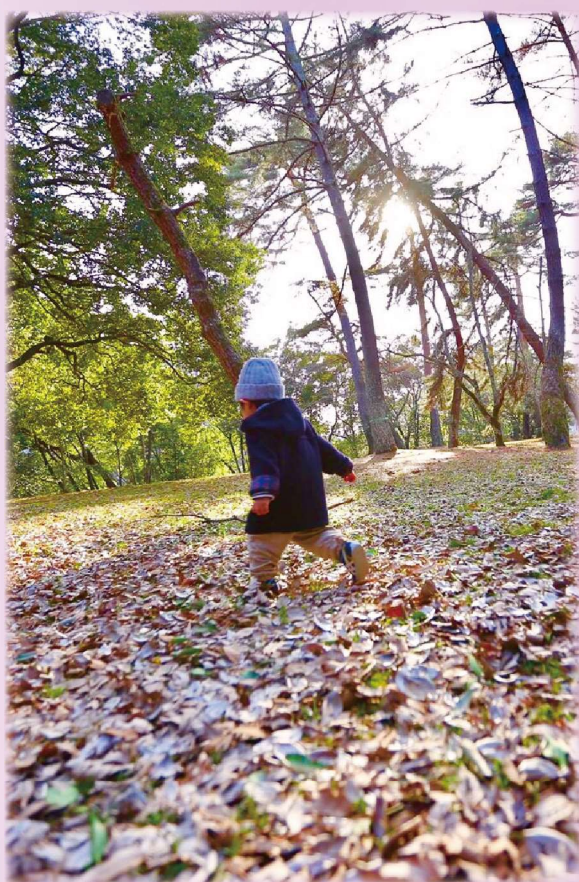


清水奈名子さん 講演会

市民による検診活動の意義

— 検診受検者へのアンケート調査結果から考える —

2011年の福島原発事故から11年が経ちました。「福島県県民健康調査」では、300人近くの若者の「甲状腺がん」が見つかっています。放射能汚染は関東にも及びましたが公的な健康調査は行われずに、市民による検診活動のみが続いています。事故当時から被害者に寄り添い、関東子ども健康調査支援基金の甲状腺検査会場（栃木県内）でもアンケートを通して受検者の声を聞き続けている清水奈名子さんのお話を伺います。



日時 2022年12月4日(日)
14:00 - 15:30

場所 常総生活協同組合 2階 組合員活動室
Zoom 視聴可

定員 常総生協会場：20名 ※要申込
Zoom 視聴：90名

参加費 無料

申込URL <https://bit.ly/3RLP4EZ>
スマホからの申込→→



問合せ先 事務局 常総生協内（担当 イハラ）

Mail ibachiba@kantokodomo.info
Tel 0297-38-8539 Fax 050-3737-9833

お申込み時に、氏名・メールアドレス・電話番号をお知らせください。

Zoom視聴希望の方には、後日参加URLをメールでお知らせしますので、ibachiba@kantokodomo.info が受信できるようにメールの設定をお願いします。 ※11月末締切



清水 奈名子（しみず ななこ） 宇都宮大学学術院 国際学部教授 

2006年、国際基督教大学大学院行政学研究科、博士後期課程修了（学術博士）。国際連合の安全保障体制について研究すると同時に、東京電力福島第一原発事故後の被害調査を進め、原発避難のタブー化や、被害の不可視化の問題を中心に研究を進めている。2007年に宇都宮大学国際学部に着任、国際学部附属多文化公共圏センター「福島原発震災に関する研究フォーラム」共同代表。2017年より原子力市民委員会委員。

近著に「人権問題としてのジェンダー格差——東電福島原発事故被害から考える」『ジェンダー研究』第24号（2022年）、高橋若菜編著・清水奈名子他著『奪われたくらし——原発被害の検証と共感共苦』日本経済評論社（2022年）がある。

主催：関東子ども健康調査支援基金 <https://kantokodomo.info>

協力：常総生活協同組合 よつ葉生活協同組合